



**長**い歴史の中で受け継がれてきた日本の伝統文化「着物」は、世界に誇る民族衣装です。着物を愛し、着付けを通して互いの親睦と日本の心を育む「むつみ会」は、町主催の着付け教室に参加していたメンバーを中心に活動しています。その教室では、名古屋帯から浴衣までを1年かけて習得。せっかくなら礼装の二重太鼓までと、有志でサークルを結成し、講師に指導を仰いでいました。その後、互いに着付けを勉強する現在の会としての活動へ。普段着感覚で着物を着られるようになることが目的なので、有資格者はいません。全員が生徒であり先生で「教えたり、教えられたりが楽しい」と、皆が口をそろえます。

月1回の活動は、畳に正座し「よろしくお願ひします」のあいさつから始まります。着付けには、着物を誰かに着せる『他装』と、自分で着る『自装』がありますが、ここでは専ら自装を追求します。いかに早く、きれいに着るか。肌着を身に着けてから、およそ15分から30分で着付けが完了します。姿見の前で帯結びに悪戦苦闘する様子に、メンバー同士でアドバイス。会話は弾みますが、決して手が

# サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

## 第30回 着付けサークル 『むつみ会』

- ①活動歴 5年
- ②年齢層 40代～60代の女性
- ③活動場所 コミュニティプラザ
- ④活動時間 毎月第2木曜日  
13:00～16:00
- ⑤代表者 所康子(とこやすこ)
- ⑥連絡先 ☎(76)3425

休まることはありません。一度着終えても、また帯を解き再挑戦!! その感覚をしっかりと体で覚えるのです。最後は、きちんと正座をして互いにあいさつをします。着物を着るということは、礼儀作法を学ぶことでもあるのです。

着付けで大切なのは、視線が集まる襟元です。このポイントさえ押さえれば、難しいものではないと、皆さん。着るこ

とに慣れてくると、食事会や同窓会などで着物を着る機会がだんだん増え、立ち居振る舞いも自然に美しくなるのです。海外旅行にも着物を持参し、ホテルで着替え外を歩いたら、現地の人々から「ビューティフル!!」と声を掛けられたり、写真を撮られたり。これも自分で着られるからこそ味わえる“喜び”なのです。

メンバーの中には、成人式に娘の着付けをした人も。着付けを習い始めた時から「いつかは…」と、心に描いていた夢でした。装いの文化は、生活の中で祖母から母、母から子へと伝えられてきたもの。着物は、日本人の体型や顔立ちによく映り、四季のある日本の気候風土にも適しています。そろそろお正月。あなたも気楽に“着物美人”を目指してみませんか?きっと、いつもと違う自分に出会えるはずですよ。



### 編集後記

★子どもと一緒に、親が部活動へ参加する多古中の『おやしも出版セミナー』。10月27日に行なわれたこのセミナーで、長女と一緒にトランペットを吹くことに♪★中学1年から高校1年までトランペット部に所属していた私。主に吹いていたのはユーホニウム(チューバを小さくしたような形で、中低音を出す楽器)でしたが、トランペットで最初に経験した楽器はトランペットでした。吹奏楽を離れて23年さらにトランペットを最後に吹いたのは26年も前のことです。音が出ればいいのかという気持ちで参加した私。内心ドキドキしながらも平静を装って、パート練習へと向かい、その結果は★音は出たので、まずはホッと安心。ところが、指使いは完全に忘れていた。娘も全然読めなくなっていた。娘からは、楽器の置き方まで指導される始末(トホホ)★昔取った杵柄とどこか「出番」も作れずに終わりましたが、久しぶりに楽器に触れて、気持ちだけは若かりし日々に戻れた気がする『おやしも』でした。

★約2年伸ばしていた髪を、バツサリ切りました。まもなく40歳を迎えるのに、いけしゃあしゃあと二つに縛っていた私に、長女から「白髪が生えたら限界じゃん」のキツイ一言★髪を短くしたら、会う人会う人に「どうして切ったの?」と聞かれ、事の契機を説明。コンタクトの日には誰だかわからなかったとの反応に、私のイメージが眼鏡に二つ縛りで定着していると痛感しました★洗うのは楽だし、すぐ乾かし、こりやええわい!と思つたら、白髪殿がよけい目立つようになつてしまつたのは計算外。アニメの妖怪が妖気を察知したときのように、ピンと怪その存在をアピール。白髪染めのXデーも、そう遠くはない!?★あるとき三女のお友達にいつもと違うと言われ、髪を切つたし今日はコンタクトだからと説明すると、彼は大きく首を振り「整形に失敗したの?」ソフトバンクな切り返しに、老いが確実に忍び寄っていることを知らされました。白髪だけじゃなかったあ...